

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

除夜会及び大節分会報告

平成30年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4~1/7 年始挨拶
- 1/10 年賀寺例
- 2/3 大節分会
- 2/15 釈尊涅槃会
- 3/11 大般若会大施食会法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- 4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 5/23~5/24 梅花流全国奉詠大会(静岡)
- 7/13~7/16 新暦盂蘭盆会
京浜地区檀信徒棚経
- 7月下旬(一泊二日) 第37回子供禪の集い
- 8/10 中元寺例
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- 8月下旬 地域防災避難訓練
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- 10/18~10/19 梅花流県奉詠大会(草津)
- 10月 宗務所檀信徒研修旅行
- 12/8 釈尊成道会
- 12/10 歳暮寺例
- 12/31 除夜会
- ※毎週水曜日 定例坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講・華道教室
- ※群馬県宗務所執務日 月・水・金曜日

本年も総代世話人様はじめ多くの皆様のご協力を以て、伝統の行事をつとめることが出来ました。有難うございました。

本年の大節分会は土曜日ということもあり、多くの参詣者で賑わいました。来賓の中曾根弘文様、福田達夫ご令室様、飯塚邦広様、清水真人様、寺本欣一治様、感謝しております。また、本年は赤鬼とぐんまちゃんが当山大節分会に駆け付けてくれ、行事に華を添えてくれました。

また、大節分会前日2日には、2月1日夜半に降り積もった雪を除雪するために10名以上の有志の皆様が、自主的に当山に集い、作業に当たりました。多くの方に支えられ、伝統の行事が行われております。この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

→上毛新聞記事 ↓皆で除雪作業を行い準備万端



↑ 盛会に勤められた大節分会



→ぐんまちゃんと赤鬼 →手作りの甘酒



高崎 1500人分の「福」仁叟寺
高崎市昇町の、きで計1500人分の「福」は3日、大人でにきわたった。



文殊堂に
は渡辺住職
や総代、
来賓約15
人が並び
「福は内」
という掛け
声とともに
福豆座布
団、温泉宿
泊券などが
当たると
「上ルなど
を授けた。
3回の豆ま
かり、文殊堂
からけられ
る福豆を
求め、参拝
者がわれ先
にと手を伸
ばした。上写
真。

(写真協力：大澤竹治世話人)

台湾 慈法禪寺 釋淨耀法師来山

去る1月20日、台湾より慈法禪寺様、釋淨耀法師はじめ井筒屋社長様ほか関係の皆様方7名が、仁叟寺にご来山いただきました。淨耀法師は台湾仏教会の重鎮であり、台湾はもとより日米中始め世界各国に於いて、精力的に仏教の布教教化活動を行っております。

当日は、総代さん及び梅花講の皆様によるお迎えをさせて戴き、本堂では日中両国語による梅花流詠讃歌をお唱えいたしました。

諷経、拝観、歓談の後、精進料理を召し上がっていただきました。また、梅花講の皆様には手作りの精進料理も提供していただきましたこと、有難く感謝しております。



↑ 本堂での法要後、欣光閣にて歓談

副住職 スリランカ研修 (幼稚園建立)



去る2月19日～24日、副住職がスリランカへ行って参りました。副住職が一昨年迄会長をつとめていた群馬県曹洞宗青年会で、托鉢やチャリティバザー等ボランティアで積み立てた浄財を使い、スリランカに建立されたマエバシ幼稚園の新園舎増築を果たしました。同園舎落慶及び世界遺産でもある仏歯寺様、スリランカ仏教の中心である大菩提会様等を拝登する研修、篠原会長始め21名の会員関係者一同にて伺って参りました。

マエバシ幼稚園は、凡そ40年ほど前に群馬県前橋市内の篤志家有志が、千葉県香取市にあるスリランカ仏教寺院・蘭華寺様を介し、スリランカはコロombo郊外に建立した幼稚園です。当初40名の園児が、現在は200名を超え、入園希望者も多いとも伺いました。式典は、日本式法要終了後にテープカットや除幕、園児によ



← 落慶式典風景

る合唱等、テレビ局も入り盛会裏にお勤めすることが出来ました。

蘭華寺様は、住職のウパテッサ老師、副住職のシイラ老師が仁叟寺住職と懇意であり、境内に所在する仏足石は老師より頂戴いたし、当山大節分会でのご協力も仰いでおります友好寺院であります。なお、ウパテッサ老師は現在、スリランカ仏教大菩提会会長をつとめ、スリランカ仏教の指導的立場におられます。

よき研修、よき仏縁、よき国際親善が結べました事、何より感謝の一言です。

→ 贈呈した新園舎にて



自らを洲とする ～備災のススメ～

仁叟寺が高崎市指定避難所になり、市より市役所と山内を直接結ぶホットラインが設置されました。また、あわせてましてラジオ高崎など災害時にラジオ放送が受信出来る機器が備え付けられました。

昨年は、地元関口区長始め高崎市防災課、消防署、小学校、吉井社会福祉協議会、消防団、第一テクノ、伊藤園高崎支店ほか多くの関係各位のご尽力により、当山を舞台に多胡小学校校区にて大規模な避難訓練等が行われました。災害に向け、備えることを備災と申します。ご家族にて、または地域にて、災害時に向けた様々なシュミレーションを行い、いざという時の心構えが出来れば、防災に繋がるものと思っております。



↑ 仁叟寺防災時通信機器

仁叟寺行事案内 ～涅槃会と花祭り～

「涅槃会」は、2月15日、お釈迦様の入滅の日に、勤修されます。涅槃とは、ニルヴァーナの訳語であり、迷妄の無くなった心の境地を指す言葉です。法要中は、お釈迦様が娑羅双樹の下で涅槃に入った際の、頭を北にして西を向き右脇を下にした姿で臥し（北枕の由来）、周囲に十大弟子を始め諸菩薩、天部や動物達が嘆き悲しむ様を描いた涅槃図を掲げ、『仏遺教経』を読誦します。他にも、涅槃団子と呼ばれる五色の餅を供え、それを食します。仁叟寺の涅槃図は、4月8日の「降誕会」で掲げられる誕生図と対になっており、約350年程前に描かれた掛軸です。十二支の由来にもなっている子丑寅卯辰……の順番は、お釈迦様の弔問に訪れた順番で、猫が入っていないのは、鼠に騙されて違った日を教えられ、それ故、猫は鼠を追いかける、と伝えられています。当山の涅槃会では、涅槃図を掲げ、釈迦涅槃像に涅槃団子を始めとするお供え物をし、感謝と報恩の供養を行います。また、当山梅花講による詠讃歌奉詠もつとめられます。

「花まつり」は、桜の花も開く4月8日に修行いたします。灌仏会・仏生会・降誕会等とも言います。様々な花で飾った小さなお堂（花御堂）の中に、甘茶の入った水盤を置き、赤ちゃんの姿のお釈迦様（誕生仏）を祀ります。誕生仏の頭から柄杓で甘茶を注いでお参りします。お釈迦様は生まれると、すぐに七歩歩み、右手で天を、左手で地を指さして「天上天下唯我独尊（人は誰でもこの世に一人だけであって予備の人間はいない。命は貴いものである。私は苦しむ人々を救うことを第一としよう）」と唱えました。すると天に住む龍が感激して甘露の法雨を降らしたといわれています。花まつりは、インド・中国・東南アジア諸国でも古くから行われている行事です。我が国では推古天皇代に元興寺で初めて行われました。お釈迦様の誕生を祝い、お釈迦様の智慧と慈悲の教えを信じていく事を誓う日でありまた、子供がすくすくと育つ事を祈る日でもあります。当山の花まつりは、降誕図を掲げ、釈迦誕生像に甘茶を注ぎ、感謝と報恩の供養を行います。また涅槃会同様に、当山梅花講による詠讃歌奉詠もつとめられます。



仁叟寺蔵 ㊤『釈尊涅槃図』/㊦『釈尊降誕図』
貞享2年(1685)作
寛政9年(1797)再表具
高崎市内で一番古い涅槃図
高崎市指定重要文化財
神保地区・関口家寄進、
同神保家寄進再表具の
墨書あり

平成29年度寄進者一覧（順不同、敬称略）

番号	地域	ご芳名	ご寄進物	
1	塩	向井 敏昭	羽二重薄茶大衣	御寄進、誠に有難うございました 合掌
2	塩	橋爪 勝	坐椅子 10脚	
3	塩	黒澤 弘一	櫨製黒龍絵懺法太鼓	
4	池	片野 久美子	本堂木製獅子及び台座一対	
5	吉井	吉田 義男	焦茶紬総刺子九条立帽子付袈裟	
6	吉井川	横山 悦子	古代型硝子照明燈 2台	
7	神保	小澤 昇	仏具修復	
8	-	新盆檀信徒一同	本堂西畳替(15畳)	
9			夏用紹改良衣	

総代人交代報告

黒熊白石地区の堀越兼一総代人が退任され、新たに三木和夫氏が総代人として就任されました。退任されます堀越氏には、大般若会大施食会法要の後、感謝状を、新たに就任されます三木氏には委嘱状を、それぞれ記念品と共に授与いたしました。堀越兼一氏、有難うございました。三木和夫氏、宜しくお願い申し上げます。

仁叟寺総代人一同

矢島正義	新井徳衛	篠崎和男
森 久	神保堯男	酒井範明
神保武長	向井敏昭	三木和夫

坐禅会、梅花講、華道教室 参加者募集中

定例の坐禅会は、毎週水曜日夜7時から副住職が、梅花講は毎月隔週水曜日午後1時30分より、華道教室は毎月隔週土曜日午後に、寺族が担当をしております。また、本年度第37回目となる「仁叟寺子供禅の集い」も、恒例の夏休み中に予定をしております。参加ご希望の方、興味関心のある方は、お気軽に当山まで、お問い合わせ下さい。

行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 渡辺龍道

仁叟寺末寺で副住職が30世住職を勤めております龍源寺の本堂再建工事。宮大工の堂宮入秀社寺建築株式会社施工により、昨秋に上棟会が終わり、その後屋根瓦が乗り、形になって参りました。期待1割、不安9割といったところです。来年の落慶に向け、多くの方々のご協力のもと、何とか進んでおります。志を希い、引き続き精進をさせていただきます。

→ 龍源寺本堂

